

国際化学肥料ニュース（2025年1月）

肥料業界の2025年1月動態

* 1月第2週（1月6～12日）の尿素国際相場は急上昇し、2023年末以来の高値となつた。東半球では、インドNFL社の尿素国際入札が失敗して、西海岸向けの18.7万トンしか確保できなかつた。中東産大粒尿素のFOB価格が380ドル／トン、クリスマス前の12月中旬に比べて30ドル以上も上がつた。カタールの小粒尿素もFOB380ドル／トン台の半ばを要求している。イランは天然ガスの不足により、尿素がさらに減産され、FOB価格も340～350ドル／トンに吊り上げられた。インドネシアKaltim社は金曜日（10日）に尿素の販売入札を行つたが、最高入札価格がまだ発表されていない。

西半球では、EU向けのエジプト産大粒尿素のFOB価格を430ドル／トン、アルジエリア産大粒尿素もFOB430ドル／トン台に乗せた。エチオピアEABC社の尿素国際入札では中東産尿素のFOB386ドル／トンが最安値である。南米CFRブラジル価格が380～390ドル／トンに上昇して、アメリカNola港に2月船積み予定の尿素のFOB価格も355ドル／トンに上がつた。

* インドネシア政府は食糧増産のために2025年に約25兆ルピア（約16億ドル）の肥料補助金を拠出する。また、2025年から新たに300万ヘクタールの水田を開拓し、水稻を増産する計画を立てている。第1弾は西パプア州（Papua Barat）に約100万ヘクタールの水田を開拓して、それに合わせて国営Pupuk Indonesia社が西パプア州に100万トン尿素を生産する新工場を建設する。

* 1月11日、インドRCF社は今年初の尿素国際入札を発表した。東海岸向け50万トン、西海岸向け100万トンを目標にして、1月23日締切りと開札、3月5日までにインドの港に到着するという条件である。

昨年12月に行った前回インドNFL社の尿素国際入札は東海岸向け50万トン、西海岸向け100万トンの購入を目指していたが、CFR東海岸299ドル／トンの応札は応札者から入力間違いという訂正があり、全く購入できなかつた。西海岸向けの一番安い応札がCFR369.75ドル／トンであるため、わずか18.7万トンしか確保できなかつた。そのために年明け早々新しい国際入札を行うわけである。

* バングラデシュ政府農業省からの発表によれば、12月15日、バングラデシュ国営BADC社はサウジアラビアのMa'aden社との間に2025～2026年の2年間に毎年Ma'aden社から40万トンDAPを輸入する契約を締結した。契約にはMa'aden社はDAP

価格が国際市場平均価格より少なくともトン当たり 2 ドル以上の割引価格で提供するほか、バングラデシュに DAP 倉庫を建設して、バングラデシュ農家に肥料の最適使用技術を教えることも含まれている。

* 1 月第 3 週（13～19 日）の尿素国際相場は引き続き上昇している。東半球では中国尿素の輸出不可およびイランの尿素減産で、インド RCF の尿素国際入札は東南アジア産と中東産尿素の価格を吊り上げた。インドネシアの Kaltim 社は 1 月 10 日に行った尿素販売入札で FOB391 ドル／トンの価格で販売したが、今週木曜（16 日）に行った新しい尿素販売入札では最高応札価格が FOB411 ドル／トンに上がった。中東産尿素はすでに FOB385～395／トンを要求している。

西半球では、エジプト産大粒尿素の FOB 価格が 2023 年 7 月以来に初めて 430 ドル／トンを突破した。ナイジェリアの Dangote 社は尿素販売入札を中止して、FOB380 ドル／トンで買手を探している。南米の尿素値上がりが緩くなり、CFR ブラジルが 390～400 ドル／トンで推移している。FOB アメリカ Nola 価格が 360 ドル／トンに上昇した。

* ブラジルの Brazil Potash 社はイスの肥料商社 Keytrade AG 社との間に Brazil Potash 社の Autazes 加里プロジェクトから年間最大 100 万トン塩化加里を販売する覚書を締結した。Autazes 加里プロジェクトはブラジルアマゾナス州の州都 Manaus 市の南東 120km に位置する加里鉱山を開発するもので、投資額約 26 億ドル、年間生産能力 240 万トン塩化加里、2026 年から一部稼働する。

* 中国税関の速報によれば、2024 年 12 月の中国化学肥料輸出量 286 万トン、その内訳は尿素 0.23 万トン、硫安 177.26 万トン、塩安 11.79 万トン、DAP21.3 万トン、MAP13.82 万トン。なお、2024 年 1～12 月の化学肥料輸出量が 2.0% 増の 3213 万トン、そのうち硫安の輸出量が 24.3% 増の 1712.51 万トンに達し、新記録となつたが、逆に尿素輸出量が厳しい輸出規制のため 93.9% 減の 26.19 万トンしかなく、DAP 輸出量が 9.4% 減の 456.31 万トン、MAP 輸出量が 1.5% 減の 200.47 万トン。

一方、2024 年 12 月の化学肥料輸入量 150 万トン、その内訳が塩化加里 141.47 万トン、NPK 化成肥料 6.89 万トン。2024 年 1～12 月の化学肥料輸入量が 7.3% 増の 1404 万トン、そのうち塩化加里が 9.2% 増の 1263 万トン、NPK 化成肥料が 1.5% 増の 123 万トン。塩化加里の年間輸入量が 2 年連続 1000 万トンを超え、史上最多を記録した。

- * 1月 21 日、バングラデシュ政府は肥料輸入に関する外貨支出法案を許可した。工業省から提出したこの法案は、BCIC（国営バングラデシュ化学工業公社）がサウジアラビアの SABIC 社から FOB360.83 ドル／トンで 3 万トン尿素、UAE の Fertiglobe 社から FOB360.83 ドル／トンで 3 万トン尿素、カタールの Qatar Energy 社から FOB378.83 ドル／トンで 3 万トン尿素、国内の合弁会社 KAFCO から 353.75 ドル／トンで 3 万トン尿素を購入する。また、モロッコの OCP 社から 3 万トンリん酸を購入するという内容である。
- * インドからの情報によれば、2024 年 12 月のインド国内尿素販売量が史上最多の 520 万トンに達した。その影響が続き、2025 年 1 月 15 日までの 15 日間の尿素販売量がすでに 230～240 万トンになり、1 月の月間販売量が 450 万トンを超える可能性がある。昨年 12 月末の在庫量が約 610 万トンであったが、1 月 16 日現在のインド国内尿素在庫量が 550 万トンまで減少した。
- * 1 月 20 日に就任したアメリカのトランプ大統領は 2 月 1 日からカナダとメキシコの輸入商品に 25% の輸入関税を発動すると発表したことに対して、翌 21 日にカナダ政府は「迅速、有力と強烈な報復措置で対応する」と声明を発表した。カナダ産塩化加里も輸入関税の対象となるため、1 月 22 日、カナダの Nutrien 社は塩化加里のスポット価格を 2.53%、Mosaic 社も 2.55% の値上げと発表した。外部の推測によれば、Nutrien 社と Mosaic 社の値上げはアメリカの輸入関税による損失を補い、販売利益率を維持する動きである。
- * 年明けのアンモニア国際市場は弱気を表している。東半球では需要不足による価格下落の圧力で、東南アジアおよび中東からの出荷がヨーロッパおよび南北アメリカ大陸へ向かう頻度が高まって、2 月積みの中東産アンモニアの CFR アメリカタンパは 500 ドル／トンと 12 月末より 35～40 ドルも下がっている。ただし、イランは天然ガスの不足で今後 2、3 か月に在庫が不足しているという噂がある。西半球では EU の天然ガス価格高騰とアンモニア価格の上昇により、玉が不足しているが、それでも東半球の余剰量を吸収しきれない。
- プロファーザーのデータによると、今年これまでのところ、1 月積みのスポット取引は合計約 24 万トンで、前年同月は約 25 万トンだった。インドと北東アジアの輸入活動は第 1 四半期後半まで低調に推移するとみられ、市場の弱気と価格の低下が今後数週間続くと予想される。

* 1月第4週（20～26日）の尿素国際相場は高値安定している。インドRCF社の尿素国際入札は1月23日に締め切ったが、応札状況が発表されず、ほとんどの関係者がその結果を見極めて行動するつもりである。東半球では、中東産尿素が10ドル上がって、FOB400ドル／トン台に上昇した。イラン産尿素もFOB350ドル／トンに上がった。東南アジアの大粒尿素はインドネシアKaltim社の販売入札の影響で、FOB411ドル／トンで安定している。

西半球では、ナイジェリアDangote社はFOB380ドル／トンで3船の大粒尿素を販売した。アルジェリアSorfert社はEU向けの大粒尿素をFOB435ドル／トンで販売した。南米ではCFRブラジルは385～400ドル／トン、アメリカではFOBNola363～367.5ドル／トンでやや上昇した。

* 1月22日、ベラルーシの国営Belaruskali社は2月から7月末までにSalihorsk4号鉱山の大規模メンテナンスを行うことにより、2025年の塩化加里生産量約90～100万トン減少すると発表した。2024年ベラルーシ塩化加里の年間輸出量が2023年より2%増の960万トンに回復されたが、Salihorsk4号鉱山の長期メンテナンスにより2025年の塩化加里輸出量が大幅に減少されると予想される。

* 1月27日、インドRCF社は尿素国際入札の開札結果を発表した。21社が応札し、その数量は東海岸向け137万トン、西海岸向け129万トンの計266万トン。最低応札価格はCFR東海岸427ドル／トン、CFR西海岸422ドル／トンで、2024年12月に行った前回NFL社の尿素国際入札の最低応札価格（CFR東海岸299ドル／トン、CFR西海岸369.75ドル／トン）より大幅に上昇した。1月23日に開札されるはずだが、最低応札価格の交渉などにより、1月27日にやっと公表されたわけである。

* インド政府が公開した最新データによれば、2024年4月～12月のインド国内肥料販売量が7.3%増の5259.2万トンに達し、新記録を樹立した。その内訳は尿素が6.4%増の3002.6万トン、DAPが12.7%減の862.3万トン、塩化加里が31.6%増の167.8万トン、化成肥料が27.1%増の1226.5万トン。

国内化学肥料生産能力の増強で、化学肥料生産量が3916.2万トンに達し、その内訳は尿素2320.2万トン、DAP315万トン、化成肥料819.4万トン、過りん酸石灰405.7万トン、硫酸55.9万トン。それに反映して、化学肥料輸入量が18.4%減の1205.4万トン、その内訳は尿素が28.9%減の431.6万トン、DAPが19.1%減の408.2万トン、塩化加里が15.3%増の217.1万トン、化成肥料が16.1%減の148.5万トン。

大手各社の営業業績

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * 中国の青山社、華友社と華峯グループが合同で貴州毕節磷煤化工プロジェクトの第1期工事が始まった。投資額 730 億人民元（約 10.1 億ドル）、貴州省の石炭とりん資源を有効に利用して、リチウムバッテリーに使うりん酸鉄とりん酸鉄リチウムのほか、りん酸とアンモニアなどを生産する計画である。第1期の年間生産能力は 50 万トンりん酸鉄、30 万トンりん酸鉄リチウム、30 万トンりん酸、30 万トンアンモニア、200 万トンコークスと 30 万トン過酸化水素である。
- * インドネシアの国営 Pupuk 社は西パプア州（Papua Barat）に年間生産能力 72 万トンアンモニア、100 万トン尿素の窒素肥料工場を建設する。2025 年初頭から着工、2028 年完成する予定である。投資額 10 億ドル。
また、Pupuk 社は南スマトラ州のパレンバン市に年間生産能力 40 万トン大粒尿素の Pusri III B 工場を建設し、老朽化した Pusri III を取り替える計画も発表した。
- * アメリカの Michigan Potash & Salt 社はミシガン州オセオラ郡に開発中の Shovel-ready 加里プロジェクトにアメリカエネルギー省から最大 12 億 6,000 万ドルの融資保証を受ける。shovel-ready プロジェクトは地下 2,500m にある加里資源を開発するもので、2013 年から設計し、淡水を地下鉱床に注入して、溶融した塩化加里と塩化ナトリウム液を地面に汲み上げ、精製する溶融採鉱法を使うことを決定し、2023 年から採鉱井戸を掘り始めた。2025～26 年に試運転を開始し、約 150 年にわたって、年間 80 万トン塩化加里と 100 万トン塩化ナトリウム（食塩）を生産することを計画している。
- * 中国の国営宜化グループは湖北省宜昌市にりん酸塩複合プロジェクトを実施する。このプロジェクトは年間 220 万トンりん鉱石精選工場、120 万トン硫酸工場、40 万トン湿法りん酸工場、20 万トン精製りん酸工場、30 万トン DAP と 30 万トン MAP 工場、30 万トン化成肥料工場、10 万トンりん系難燃剤工場、5 万トン工業級 MAP 工場などから構成される。総投資額 52 億人民元（約 7.2 億ドル）、2025 年から順次に完成し、稼働する。
- * インドの AM Green 社はアンドラ プラデーシュ州の Kakinada にあるアンモニアプラント 2 基をグリーンアンモニア複合施設に転換する。このプロジェクトは、既存のアンモニア施設 2 か所を改修し、1 日あたり 1,500 トン炭素フリーのアンモニアを生産できる世界最大級のグリーンアンモニア複合施設にするもので、肥料業界の脱炭素化における大きな前進となる。スイスの Casale 社を技術パートナーに選定し、最終投資決定（FID）を受ければ、着工することになるという。

その他

- * カナダの証券委員会はカナダの証券取引所に上場している Western Resources Corp. 経営陣による証券取引停止命令 (MCTO) を発表した。Western Resources Corp.社は中国国営資本がカナダの加里資源を開発するために設立した会社で、サスカチュワン州 Regina 市近郊に Milestone 加里鉱山を開発しているが、資金難で 2024 年 5 月から開発を停止している。それの伴い、2024 年 9 月 30 日に終了した会計年度の年次情報フォーム、監査済み年次財務諸表などはカナダの証券法に基づいて必要な提出が義務付けられている日付である 2024 年 12 月 30 日までに提出されていない。会社倒産または清算の恐れがあるため、経営陣による証券取引（主に株式の売却など）を強制停止する措置を取っている。
- * 中国国営の貴州りん化グループは湿法精製りん酸の年間生産能力を 2024 年の 200 万トンから 2025 年末に 270 万トン、2026 年末に 300 万トンに増強し、世界最大の精製りん酸メーカーの位置を守る。高純度の精製りん酸は主に工業用りん酸化合物の原料として、化学工業、医薬、食品、新エネルギーなどの分野に応用されている。
- * アメリカの Mosic 社は所有するブラジル Patos de Minas にあるりん鉱山と尾鉱ダムなどをブラジルの Fosfatados Centro SPE 社に 1 億 2500 万ドルで売却した。2006 年のデータでは Patos de Minas りん鉱山のりん鉱石資源量 3 億 460 万トン (P2O5 平均含有量 12.36%)、現在年間 P2O5 24% のりん鉱石 20 万トンを採掘して、りん酸肥料の生産に供している。Fosfatados Centro SPE 社は買収代金を 6 年間にわたり Mosic 社に支払うという。
- * ポーランドの Grupa Azoty SA 社はウクライナの Agroprosperis 社に硝安、硫安および NPK 化成肥料を供給する契約を締結した。すでに 2024 年 12 月に初めて肥料をウクライナに輸出したが、2025 年 1 月から恒常供給ことになる。
- * アメリカのドナルド・トランプ大統領が 1 月 20 日に就任することで、北米の加里市場はカナダからの加里輸入に関税が課されるかどうかの確認を神経質に待っている。トランプ氏は 2024 年 11 月に初めてカナダとメキシコからのすべての輸入品に 25% の関税を課すと脅し、それ以来何度も同じ脅しを繰り返してきた。カナダからの塩化加里輸入に関税が課された場合にカナダだけではなく、アメリカの加里市場に重大な影響を与える恐れがある。

アメリカの年間塩化加里輸入量の 85%はカナダからの品物である。最新の貿易データによれば、2024 年 1 月から 11 月までにすでにカナダから 700 万トン以上の塩化加里が輸入された。塩化加里の輸入に関税が課されれば、アメリカ農業への加里肥料供給に大きな影響を及ぼす。価格への影響ではニューオーリンズの粒状塩化加里バージ船の価格は、カナダに対する関税導入の可能性への懸念から、すでに上昇の兆しを見せている。

- * フィリピンにある国際稲研究所 (IRRI) と中国の XAG 社は、ドローン技術を使用したデジタル農業と精密農業を通じて、フィリピンにおける農業の自動化と革新を加速させる覚書を締結した。その内容は IRRI と XAG が協力し、実験と研究を通じて、ドローンを利用する種子、肥料、農薬散布だけではなく、作物の監視、農業生産性の向上、精密農業のサポートなどを通じてスマート農業技術を稲作システムに応用することを検証するものである。
- * アメリカのマサチューセッツ工科大学 (MIT) の研究チームは、高温高圧を必要とする通常のアンモニア合成法 (ハーバー・ボッシュ法) の代わりに、地下にある地熱と圧力、および地中にすでに存在する鉱物の反応性を利用して、地球自体を化学反応器としてアンモニアを製造する革新的な方法を開発した。
Joule 誌に掲載される論文によれば、MIT の Iwnetim Abate 教授と Ju Li 教授のチームが考案したこの方法は、地下の鉄分を豊富に含む岩盤に水を注入するというものである。その原理は水が鉄と反応して水素を生成し、その水素がさらに窒素と反応してアンモニアを生成して、別の井戸を使用してそのアンモニアを地表まで汲み上げ、回収するものである。このプロセスはすでに研究室では実証されているが、自然環境ではまだ実証されていない。ただし、特許を申請しており、このプロセスを市場に投入することを目指しているという。
- * アメリカの石油会社 Exxon Mobil 社と Trammo 社は低炭素アンモニアの引取販売に関する基本合意書 (HOA) を締結した。その内容は Trammo 社が Exxon Mobil 社のアメリカテキサス州 Baytown の施設から年間 30~50 万トン低炭素アンモニアを長期的に引き取り、肥料原料やその他の主要な産業用途向けにヨーロッパおよび世界中に販売する。Exxon Mobil 社の Baytown 施設は 1 日あたり最大 280 億リットルの低炭素水素と年間 100 万トン以上の低炭素アンモニアを生産する計画で、2025 年に最終投資決定を下し、2029 年から稼働する予定である。